夏休み無料塾に続いて、昨年子ども食堂をスタートさせました。たまり場での子どもや若い世代に向けた取り組みを、多くの支部で取り組めればと思います。

若い人たちに働きかけるには、職員さんの力が必要だと思います。若い世話人さんが少ないので、これを増やすためには、若い職員さんに頼る部分も多いかと思います。ぜひご協力をお願いします。

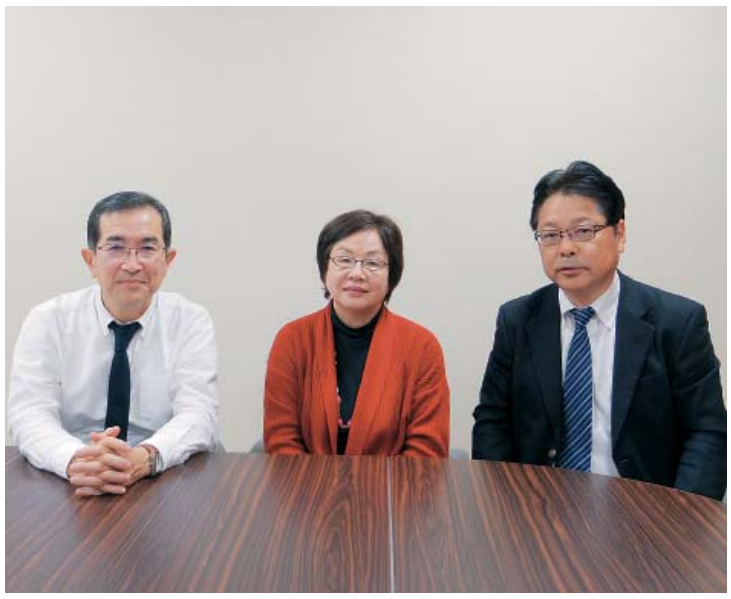
土井　友の会は居場所づくりや、地域で生み、育て、看取るという中での、若い世代の担い手づくりをどうしていくかという課題があります。

また、同仁会ではSDH（健康の社会的決定要因）やHPH（健康増進活動拠点病院）、そして無料低額診療事業などの取り組みをしています。地域、院所、医療現場ではどう取り組むのか、若い担い手をどうつくっていくのかという2つの問題についてお話しください。

斉藤　鳳の子ども食堂、無料塾というのは大変すばらしい活動だと思います。お父さん、お母さんの仕事や経済状態が直接子どもに影響してくる。食事をする、あるいは勉強をするという子どもたちの基礎的なところをサポートしているというのは、非常に地域の力になり、子どもたちにもきっと影響があると思うのですよね。

SDH、HPHという観点からすると、地域がどうなっているかという分析が大事です。「この人、なにか問題をかかえてらっしゃるな」と気づいたことを職員で共有して訪問するなり、「本人に家庭の状況や仕事の状況を聞く」というのが、SDHのスタートです。もし気づいたらどうするかという次の手段がHPHです。民医連が加盟している世界のネットワークに入っていて、外国でのカンファレンス（発表会）に、耳原からも毎年、若手が研究したことを発表しています。これからもすすめていきたいと思っています。

若い人たちに歴史、日本が歩んできた道、憲法の理念等を伝えるのは、先輩である私たちの役目であろうと思います。



地域の福祉力を高めるためにももっと地域へ

土井　厳しい状況の中で地域の福祉力を高めることをめざして、さまざまな工夫や取り組みが行われていると思います。

昨年秋の共同組織強化月間では、地域訪問を軸にどのような取り組みが行われて、共同組織を大きくする、または担い手をつくるような運動がされたか、江戸会長からお願いします。

江戸　鳳エリア（鳳支部・ふくいずみ支部）のふくいずみ支部だけでみても130軒を回って約半分が留守です。対応してもらえたお宅でも、「忙しい」などと2～3割は断られるんです。そんな中で、2年前にご主人が入会された家を再訪問したら、奥さんが出てこられた。

私が「どうですか?」と聞いたら、奥さんが「主人がずっとお世話になっています」と言われました。それで「奥さんも入ってもらえませんか」とすすめると「私も入ろうと思っていました」と言っていただいた。そのときの病院の対応が悪ければ、新たな会員にはならなかったと思います。

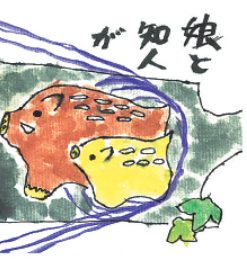
私自身は医療保険制度や介護保険制度の現状を踏まえたもとで、友の会会員の期待に応えられる活動にするために、どうしたらいいのかということを考えます。

土井　いろんな期待が大きくて、その期待をどう現実のものにしていくかが大変だということですね。斉藤理事長は、秋の強化月間の拡大推進本部長として実際に地域にも出て行かれ、訪問活動等にも先頭に立たれました。いかがでしたか。

斉藤　今回は会員さんといっしょにまわりました。まず気がついたのは、9月4日の台風の被害です。屋根の修理は、屋根屋さんの人手不足と材料不足で、夏ぐらいまでかかるらしいです。

まちづくりということでは友の会の力は大きいと思います。とくに診療所は、まちづくりの最前線だと思います。しかし、耳原では地域に出かけていくことに十分力がそそがれていない。地域にアンテナをはる必要があり、それが1つのまちづくりにつながると思います。

友の会のしていることを私たちも一緒にやっていく。そして、できたら耳原以外の自治会の方たちの力もいただいて、広げていければと思っています。



西岡　聖子

平和と民主主義はまちづくりの屋台骨

土井　今年は4月に一斉地方選挙、夏には参議院選挙、秋には大阪府知事と大阪市長選挙のダブル選挙があります。私たちは医療や福祉の現状をアピールする、絶好のチャンスかなと思っています。江戸会長にこんな友の会活動をつくっていきたいということも含めて、お話をお願いします。

江戸　友の会のモットーである、安心して住み続けられるまちづくりをめざして、一人でも多くの会員さんと対話して、友の会の活動を理解していただき、仲間の輪を大きくして運動を前進させていきたい。

私たちは、「堺はひとつ」を合言葉に第二期竹山市政を実現させ、がん検診の無料化や子ども医療費助成制度を18歳まで拡充、第3子以降の保育料の無料化を5歳児まで拡充などの市民要求が実現しました。

この運動の成果を力に、憲法9条を守る意義や、大阪市をなくしてしまう「大阪都」構想の問題点などをいろいろな所で、いろいろな人にコツコツと伝えていかなければなりません。

柿本　初野

一人ひとりは小さな力ですが、友の会の人たちと大きな目標をもってやっていく2019年にしたいと思っています。

土井　それでは同仁会・耳原グループの理事長として、耳原がこの19年、どういう形で臨んでいくのかということで斉藤理事長、お願いします。

斉藤　まちづくりだとか、友の会の方たちのご活躍だとか、地域の絆は地域を健康にしていく、みんなが元気になるための大事な要素です。私たちもそれをいっしょに取り組んでいきたいです。

同時に、江戸さんがおっしゃったように、政治にもどうしても目を向けなければいけない。診療報酬、介護報酬というのは、今、閣議決定で政府が決める。また、医師も看護師も関係するのですが、今、働き方改革と言われていますが、これも1つの法人、事業所が決めることではなく、定員は国が決めますから、否が応でも政治に目を向けなければいけない。

貧困問題も、単に貧困の1つの家庭が悪いというわけではなく、貧困を生み出す社会的な土壌があるので、それはやはり政治だと思う。もちろん、軍事も、教育もそうです。

そのためにはやはり私たち住民が声をあげることが必要です。それはある意味、政治活動だと私は思います。また、民医連がやっている無料低額診療は、薬代はその中に含まれていません。国の問題ではありますが、私たちに一番近い堺市にがんばってほしい。

最大は憲法改定、それが通ってしまうと自衛隊が軍隊となるだけではなく人権が抑えられる。人権が抑圧されると医療・介護・教育は一気につぶされてしまう。人権第一ということで憲法改定には反対するという運動も今年は強めていきたいと思います。

土井　おふたりのお話の中でも、まちづくりでは平和や民主主義がものすごく大きな位置を占めている。福祉力をもっともっと大きくし、住んでよかったまちづくりをすすめていく。その中で同仁会グループと健康友の会が手を携えて、地域のまちづくりを担う2019年にしていきたいと思っています。きょうはお忙しい中、ありがとうございました。この1年間、よろしくお願いします。